

観V&Cリスト

日出彦

(2006.1~3)

心にゆとりのないときに映画は癒す薬です。公私共に多忙を極めたこの時期、気が付くと結構映画館に通っていました。小田急沿線や京王沿線にワーナーマイカル・シネマズやトーホー・シネマズや東宝シネマズのシネコンが林立していて、時間が空いたら、あるいは思い付いたら映画をみることができるようになりました。

ところで、最近では家にいながら映画を観られるビデオ・オン・デマンドも進んできました。前に紹介したGyaoだけでなく、Yahoo! Japan やNTT のフレッツ・スクウェアでも無料の映画がサービスされるようになりました。小生の住むE市にもやっと IT化の波がやってきて、Bフレッツが引けるようになり、ADSLから乗り換えました。最大100Mbpsということですが、実測すると54Mbps程度のようなので、でも、アナログ回線のADSL(モアII 40Mbps)よりも5倍も速くなりました。ADSLは電話局からの距離もあって実力がでていなかったのです。光回線で環境は整いましたが、問題は家の端末で、デスクトップがCeleronのため1Mbpsの画像の受信がやっとという状況です。ノートがモバイルAMDなのでフレッツ・スクウェアの6Mbps画像も観ることができますが、一寸迫力不足かな。擬似5.1サラウンドレンタルビデオの店もこれからは大変ですね。まだ、ネットからの有料ビデオは割高なので成り立っていますが。さらに、4th Mediaというサービスも始まって、小生は割高なのでまだ加入していませんが、CATVとも競争が激化しそうです。

当面は古い映画やアニメはネットで、一寸新しいのはレンタル店で、見逃した映画をキャッチすることになりそうです。

【イーオン・フラックス (AEON FLUX)】 (C) 主演：シャーリーズ・セロン (Charlize Theron)



主人公のイーオン・フラックスのノンストップ・アクション。今から400年後の未来社会。SFによくある設定で、キーワードを並べれば、巨大ドーム都市、君主国家、失踪者、政府と反政府組織“モニカン”、革命戦士イーオン、致命的ウイルスの謎、クローン技術などである。難しいことを言わずに観ていればよい。未来型のゾンビ映画とも考えられる。☆☆☆

【PROMISE (無極)】 (C) 主演：真田 広之、チャン・ドンゴン、セシリア・チャン、ニコラス・ツェー

チェン・カイコー監督の新作ということで話題性がある。日韓中の俳優の競演ということも話題性がある。内容はファンタジーで、オイデプス王の物語を翻案したように思える。あるいは東洋人には輪廻思想。画面は極彩色で美しい。人を愛せないことの代償に栄耀栄華を得る約束 (promise)

を女神と交わした少女が王妃になっている。3人の男（大將軍、奴隸、公爵）がその王妃の愛を得ようと競う物語。ラストは時空を遡って、どうリセットしたのかが謎として残る。☆☆☆

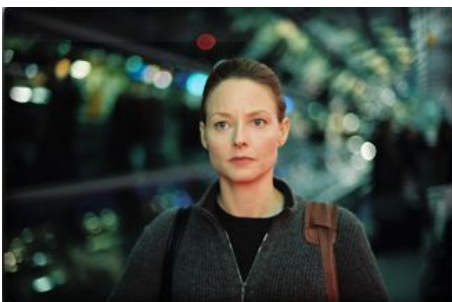


【SAYURI（さゆり）】（C）主演：チャン・ツイイー、渡辺 謙、ミシェル・ヨー、コン・リー



中国で排斥運動が起こったといういわく付きの映画。しかし、物語は一種の純愛物語である。むかし、大映など日本映画の芸者モノとよく似たストーリーで、貧しい家の娘さゆり（チャン・ツイイー）が置屋に売られて、芸者への道を進み、ここがハリウッド的だが、最後に幸せを勝ち取る。戦前から戦後にわたる軍国主義の時代背景があり、軍人の客も出てくる。中国が過激に反応する意味がここにあるかと思うが、もっと単純に「芸者」を演じること自体が問題なのかも知れない。多分、映画を観ないでの反応ではなかろうか。初桃（コン・リー）と豆葉（ミシェル・ヨー）の売れっ子芸者の意地の張り合いは一寸あくどい。日本人俳優ではおカボ役の工藤由貴が印象に残る演技だった。☆☆☆☆

【フライトプラン】（C）主演：ジョディ・フォスター



飛行中のジェット旅客機内で、カイル（ジョディ・フォスター）の6歳の娘が寸時の眠りから覚めると忽然と姿を消している。フライト・アテンダントも周りの旅客も誰も行方を知らないし、果ては乗客リストからも娘の名が消えていて、娘の存在も否定されてしまう。ここまで観て、結末はホラーかと思った。ビデオで観た「フォーガットン」を思い出してしまった。しかし、このカイルがこの飛行機的设计者であったから、秘密の出入口や通路を使って、ただ1人で機内を搜索する活躍になる。中頃で映画は犯人をバラして倒叙になり、サスペンス&アクション物に代わってしまう。一寸興奮めである。「パニックルーム」の方が良かった。☆☆★

【THE 有頂天ホテル】（C）主演：多数

三谷幸喜監督の喜劇。役所広司、松たか子、佐藤浩市、篠原涼子など多数が出演している。有名な「グランドホテル」へのオマージュが明らか。映画の中でもルーム名の付け方で明らかにしている。内容はどたばた喜劇であるが、楽しめた。かつての大宮デンスケや藤山寛美の喜劇を思わせるところがある。でもエノ健、あちゃこ、金語楼などの出演していた古典的な斉藤寅次郎のどたばた喜劇とはやや違う。西田敏行や伊東四郎などのアクの強いどたばたはそれに近いが、メインではない。役所や松の人物取り違えのファースは力演だが、普段のキャラクターとの落差がみえて白ける場面もある。つまり、伊東四郎ならいいが、役所にはやって欲しくないなど。数々の芸達者な俳優の中に入ると、香取慎吾がへただねえ。役柄で損しているかも知れないが。クライマックスの賑やかな中での松の演技はよい。戸田恵子のアシスタント・マネージャーと篠原涼子の娼婦の役が儲けもので、印象に残る。☆☆☆★



【天龍八部】（V）金庸の小説のTVドラマ化

全部で10巻あるが、まだやっと半分まで見たところ。荒唐無稽といってしまうまでもだが、とにかく面白い。武術、忍術、妖術など何でもあり。辺境の中国物でいろいろな民族が入り組んで出てくるぞ。☆☆☆☆☆



紙数が尽きました。この他にも、鈴木清順の「オペレッタ 狸御殿」などのビデオも見たのですが、また次の機会に。